



国立研究開発法人 日本医療研究開発機構  
Japan Agency for Medical Research and Development



# 研究公正に関する ヒヤリ・ハット集

## 事例ご提供のお願い

国立研究開発法人日本医療研究開発機構  
研究公正・業務推進部  
研究公正・社会共創課

[https://www.amed.go.jp/kenkyu\\_kousei/kiyouzai\\_hiyarihatto.html](https://www.amed.go.jp/kenkyu_kousei/kiyouzai_hiyarihatto.html)

当機構では令和2年、研究不正を水際で防いだ事例を集めた「研究公正に関するヒヤリ・ハット集」を刊行いたしました。発刊から約2年が経過し、医療分野、生命科学分野を取り巻く研究環境やリスクもさらに多様化していることなどから、このたびヒヤリ・ハット集の追補版の作成を進めております。

研究を進めるに当たっては、実際に研究不正を行ってしまう人は少なく、何らかの理由のために不適切な研究行為をしてしまおうか悩みながら思いとどまった例や、周りの人にそれは不適切な行為だと指摘されて不正をせずに済んだ例の方がはるかに多いと考えられ、これら**研究不正を未然に防いだ事例を研究者が知っていただくことは、将来自分がそのような状況になった時にどう対処すべきかを考える際の参考になると**考えております。

研究者にとってより実践的なものとするために、ヒヤリ・ハット集には研究者の皆様の実際の体験に基づく事例を掲載しております。追補版の作成にあたり、**研究者の皆様、ご自身のヒヤリ・ハット事例のご提供にご協力いただきたい**と考えております。ヒヤリ・ハット集の目的は、ご自身の判断や周囲からの指摘等により研究不正やガイドライン違反等を踏みとどまった好事例を広く発信することであり、研究者個人の研究不正等を追求することはまったく意図しておりませんが、事例をご提供いただける際には**すべて匿名化したうえで編集を行い、ヒヤリ・ハット集には個人や所属機関等は特定されない形で掲載し、ご協力いただいた皆様にはご迷惑のかからないよう十分配慮させていただきます。**

なお、本調査は、EY 新日本有限責任監査法人に業務委託のうえ実施しております。ご多忙の折大変恐縮なお願いではございますが、何卒本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をいただけますよう、よろしくご検討のほどお願い申し上げます。

【具体的な詳細についての問い合わせ先】

EY新日本有限責任監査法人 CCaSS事業部（南條・吉澤）

[RCR2022@jp.ey.com](mailto:RCR2022@jp.ey.com)